「特別の教科　道徳」学習指導案

日時　令和元年１０月３０日（水）第５校時
第１学年１組　２９名
授業者　　手塚　奈緒

＜目指す児童像＞
自分の思いや考えをもち、あらわすことができる児童

１　**主題名**　『よいと思うことを』（Ａ　善悪の判断、自律、自由と責任）
　　教材名　「ダメ」（出典：東京書籍　『あたらしいどうとく１』）

２　主題設定の理由（指導観）

（１）ねらいとする価値　（価値観）

児童が社会でよりよく生き、周りの人間と良好な関係を築いていくためには、してよいことと悪いことを自分で判断し、その上で自分が正しいと思うことを行動に移せることが大切である。しかし実際には、正しくないと理解していても自分の主張や利益を優先して行動してしまったり、周囲の人間との関係によって正しいことが言えなかったりすることもある。

自分がよいと思うことを人に左右されずに行うためには、自分の考えに自信をもち、勇気をもって周囲の人に伝えられることが大切である。自分の気持ちやよいと思うことをすすんで伝えることで、気持ちがすっきりしたり、相手に自分を理解してもらえたりすることに気付かせたい。

（２）児童の実態（児童観）

入学して半年がたち、児童は学校生活にだいぶ慣れてきた。学校や学級の一員として、そのルールを守ろうと自ら行動したり、友達に声をかけたりする児童も多い。一方で、遊びや自分のやりたいことに夢中になってしまうあまり、ついルールを破ってしまったり、自分の正しいと思っていることがうまく伝わらず、いらいらして相手を傷つけてしまったりする場面も見られる。その都度お互いの話を聞き、落ち着いて相手に自分の気持ちを伝えられるよう指導してきた。

また、相手に嫌われることを恐れるあまり、自分がよいと思ったことやいやだと思うことをなかなか相手に伝えられず、我慢してしまう児童もいる。自分の考えや気持ちを言えないために、それが相手に伝わらず、自分のいやな気持ちが募ってしまうこともある。自分がよいと思ったことを、すすんで相手に伝えられるようにしていきたい。

（３）教材について（教材観）

大好きなプリンをくまくんに食べられてしまった「ぼく（りすくん）」。本当は自分で食べたかったが、その場で「ダメ。」と言えず、悔しい思いをする。体も声も大きいくまくんがこわくて、何でも譲ってきた「ぼく」が、次の日に自ら「あやまって。」と迫るお話である。

話の内容がわかりやすく、相手を恐れてよいと思うことをなかなか言えない気持ちと、それでもやっぱり言わなくてはいけないと思う気持ちの間で揺れ動く「ぼく」の葛藤に共感しやすい教材であ

る。
　また、「ぼく」が「あやまって。」と伝えたことで、くまくんはりすくんがいやな気持ちになっていたことを知ったり、「ぼく」自身の気持ちもすっきりしたりする２人の姿を通して、よいと思うことはすすんで行おうとする心情を育てたい。

３　低学年ブロック分科会の取組

（１）学習指導案の作成において話題になったこと

・本時のねらいについて（ねらいとする価値との整合性があるか）
・ねらいに迫るための、導入の発問、中心発問について
・展開に後段で、自分の生活を振り返らせるための発問について

（２）学習指導案の作成までの取組

７月３０日（火）　学年で内容項目、教材について検討する。
８月２８日（水）　学年で指導案について検討する。
９月２５日（水）　学年で指導案について再度検討する。
１０月　１日（火）　低学年ブロックで、指導案について検討する。
１０月１７日（木）　事前授業（1 年 2 組）。その後、研究主任、学年で検討する。
１０月２１日（月）　研究推進委員会にて指導案を検討する。

４　研究主題に迫るための手だて

（１）「主体的な学び」に導くために

発問の工夫

・導入で、教材の内容に関することについて、自分だったらどうするか問うことで、児童が自分事として考えられるようにする。

教材提示の工夫

・紙芝居にして教材文を提示することで、児童がその内容を理解し、主体的に考えやすくなるようにする。

考えを深めるための工夫

・中心発問に対する考えを、登場人物のお面を使って発言させることで、児童が「ぼく」の気持ちになって考えやすくなるようにしたり、発言する意欲を高めたりする。

（２）「対話的な学び」に導くために

板書の工夫

・登場人物が、自分の気持ちを言うか言わないか迷う場面で、２つの意見を分けて板書することで、その葛藤が視覚的にわかりやすくなるようにする。

（３）「深い学び」に導くために

発問の工夫

・後段の発問で、自分の経験を振り返らせることで、児童が自分の生活と引き合わせながら考えられるようにする。

５　本時の展開

（１）　ねらい

くまくんが謝ってくれたときの「ぼく」の気持ちを考えさせることを通して、よいと思ったことをすすんで行おうとする心情を育てる。

（２）　本時の展開

過程	時間	学習活動（〇発問◎中心発問・予想される反応）	◇指導上の留意点　◆評価（方法）
導入	5分	１　自分が好きな食べ物を食べられてしまったら、どうするか考える。 〇自分が大好きなものを友達に先に食べられてしまったら、どうしますか。 ・怒る。 ・「なんで食べちゃうの？」と聞く。 ・何も言わずに我慢する。	◇座席をコの字型にする。 ◇数人の児童に発表させる。
展開	25分	２　「ダメ」を読んで話し合う。 〇くまくんに「ダメ。」と言えなかった夜、「ぼく」はどんなことを考えていたでしょう。 ・食べられていやだったことを、くまくんに言おう。 ・明日ちゃんと、くまくんに話そう。 ・このままは、いやだ。 ・でも、大声を出されたらこわいな。 ・突き飛ばされたりしないか心配。 ◎くまくんが謝ってくれたとき、「ぼく」はどんな気持ちだったでしょうか。 ・ちゃんと言えてよかった。 ・くまくんがわかってくれてよかった。 ・自分の気持ちが言えてすっきりした。	◇児童を真ん中に集め、紙芝居にして話を聞かせる。 ◇「ぼく」が自分の気持ちをなかなか言えないことをおさえる。 ◇自分の気持ちを言おうとする気持ちと、それを尻込みしてしまう気持ちの間で揺れ動く「ぼく」に共感させる。 ◇「言いたい」気持ちと「言えない」気持ちを分けて板書する。 ◇自分の考えをワークシートに書かせる。 ◇登場人物のお面をかぶらせ、発表させる。 ◇自分のよいと思ったことを言ったことで、自分の気持ちもすっきりすることに気付かせる。 ◆自分がよいと思ったことを伝えるよさに気付けたか。（発言・ワークシート）

展開・後半	12分	3　自分の生活を振り返る。 ○「ぼく」のように、自分がよいと思うことをすすんで言えてすっきりしたことは、どんなことがありますか。 ・友達に謝ったら、仲直りできた。 ・やりたい遊びを言って、みんなでその遊びができた。 ・いやだと言ったら、謝ってくれた。	◇自分の考えをワークシートに書かせる。 ◇思いつかない児童には、自分のことが言えなかった経験でもよいことを伝える。 ◆これまでの生活を振り返り、自分がよいと思ったことをすすんで伝えるよさに気付けたか。（発言・ワークシート）
終末	3分	4　教師の説話を聞く。	

6　板書計画

ダメ。

ダメと言いたい。
ずっとこのままじゃいやだ。
あやまってほしい。
ほんとはプリンを食べたかったと言いたい。

怒られたらどうしよう。
こわい。
体も声も大きくてやだ。
突き飛ばされないかな。
心配。
不安。

あした、くまくんにいおう。

「ぼくは、いやだったんだ。
くまくん、あやまって。」
「プリンたべて、ごめん。」

◎くまくんがあやまってくれたときの、「ぼく」のきもち
・ちゃんと言えて、すっきりした。
・言ってよかった。
・くまくんも、わかってくれた。

◎「ぼく」のように、自分がよいと思うことを言えてすっきりしたこと
・あやまったら、仲直りできた。
・いやだと言ったら、あやまってくれた。

７　本時のワークシート

8　資料分析表　　1年　「ダメ」

＜場面＞	＜ぼく(りすくん)の心の動き＞	＜発問＞	＜発問の意図＞
おやつにりすくんの大好きなプリンが出た。くまくんは、りすくんのプリンを食べてしまった。	・あとでゆっくり食べるつもりだったのに。 ・くまくん、なんで食べちゃうんだ。 ・本当は食べてほしくないのにな。	くまくんにプリンを食べられてしまったとき、「ぼく」はどんな気持ちだったでしょうか。	りすくんが、本当はプリンを食べてほしくないと思っていることをおさえる。
りすくんは、体も声も大きいくまくんに、なんでもゆずっていた。	・本当は、なんでもゆずるのはいやだ。 ・でも、体も声も大きいくまくんがこわくて、本当のことを言えない。 ・本当のことを言って、くまくんが怒ったらどうしよう。	なぜ「ぼく」は、くまくんになんでもゆずっていたのでしょうか。	くまくんがこわくて、自分の気持ちを言えない「ぼく」の気持ちをおさえる。
りすくんは、くまくんに「ダメ。」と言えずに、涙を流す。	・プリンを食べられてしまって、くやしい。 ・「ダメ。」と言えばよかった。 ・でも、くまくんがこわい。 ・どうして言えなかったんだろう。	くまくんに「ダメ。」と言えなかった夜、「ぼく」はどんなことを考えていたでしょう。	くまくんに「ダメ。」と言えないこわさと、悔しさの間で揺れる「ぼく」の気持ちに共感させる。
夜、くまくんにプリンを食べられていやだったことを伝えようと決める。	・やっぱりちゃんと、食べられていやだったことを言おう。 ・でも、つきとばされたらどうしよう。 ・大声を出されたらこわいな。 ・このまま何でもゆずらなきゃいけないままなのはいやだな。	くまくんにいやだったことを伝えようと決めた「ぼく」はどんな気持ちだったでしょうか。	くまくんがこわいと思う気持ちと葛藤しながら、勇気をもって自分の気持ちを伝えようとする「ぼく」の気持ちに共感させる。
次の日、くまくんに、プリンを食べたことをあやまってと伝えた。	・ちょっとこわいけど、勇気を出して言おう。 ・くまくん、おこるかな。 ・でも、また悔しい思いをするのはいやだ。	くまくんにいやだったことを伝えた「ぼく」はどんな気持ちだったでしょうか。	くまくんがこわいと思う気持ちと葛藤しながら、勇気をもって自分の気持ちを伝えた「ぼく」の気持ちを考えさせる。
くまくんが、りすくんにあやまった。	・ちゃんと言えてよかった。 ・くまくんがわかってくれてよかった。 ・自分の気持ちが言えてすっきりした。	くまくんが謝ってくれたとき、「ぼく」はどんな気持ちだったでしょうか。	勇気を出して自分の気持ちを伝えることができた「ぼく」の気持ちに共感させる。
おやつのいちごをくまくんがくれた。二人は笑いながらいっしょにいちごを食べた。	・くまくんがわかってくれて嬉しい。 ・大好きないちごをくれるなんて、くまくんは優しいな。 ・くまくんと仲良くなれてよかった。	くまくんと、笑いながら一緒にいちごを食べた「ぼく」は、どんな気持ちだったでしょうか。	自分の気持ちを伝えたことで、２人がより仲良くなれたことに気付かせる。